

伊豆山温泉の旅 2021



2021年3月

旅のチカラ研究所 植木圭二

新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言の解除のタイミングで、妻と静岡県熱海市の伊豆山温泉に行ってきた。今年になってから初めてで約3カ月ぶりの旅行を紹介する。

■緊急事態宣言が明けた

新型コロナウイルス感染症は私たちの生活に大きな変化をもたらした。しかし感染症は今に始まったことではなく、人類の歴史は疫病との闘いとも言われている。その疫病との闘いは歴史を調べればいくらでもあるが、私が最近行った国で旅行記を読み返してつらつら考えてみた。

まずは約1年前に訪れた南米にあったインカ帝国もその闘いの末に国が滅びた最たるものかもしれない。インカ帝国は最盛期には人口1600万人を擁した大帝国だったが、スペイン人のフランシスコ・ピサロに滅ぼされた。それは直接的には奇襲や武器の優劣によるものだが、実はその布石は疫病にあった。コロンブスが新大陸に到着し南米にもヨーロッパ人が来るようになり、ピサロ一行が到来する数年前にヨーロッパ人が持ち込んだ天然痘がインカ帝国内に広まり、人口は1/10にもなったと言われている。そしてその弱体化したインカ帝国はわずか168名というピサロ一行によって滅ぼされた。詳しくは旅行記「南米の旅2020」で紹介している。

また、約2年前に行ったクロアチアのドブロブニクはアドリア海に面した海洋都市国家で海洋貿易によって中世ヨーロッパで繁栄していた。貿易立国なので多くの船が来港していたが、船で運ばれてくるのは貿易品だけではなく様々な疫病も持ち込まれる。ドブロブニクは海と城壁に囲まれた要塞都市で城壁の外に検疫所があり、船でやって来た船乗りたち全員を検疫所に40日間隔離した。40日あればほとんどの疫病の潜伏期間はカバーでき、いわゆる水際対策を徹底した。それゆえ「アドリア海の真珠」、さらに「ドブロブニクを見ずして天国を語ることなかれ」という名言まで生まれ、美しいだけではなく社会システムの整った素晴らしい都市国家になった。こちらも詳しくは旅行記「旧ユーゴスラビアの旅2018」で紹介している。

どちらの話も今から500年以上前のことで、疫病を全く知らないインカ帝国と疫病との闘いに慣れたドブロブニクとの違いが浮き彫りになった事例かもしれない。

そして現在の日本は 2020 年 4 月、そして 2021 年 1 月に“巣ごもり”の緊急事態宣言を
出した。2 度目の宣言は首都圏において延長・再延長により 2 カ月半も続き、ようやく解除
されることになった。

インカ帝国のように人口が大幅に減って日本が減ぼされることはなかったが、私は 500 年
以上前のドブロブニクの方が現代日本よりも一枚上手のような気がする。現在でもそのよう
な徹底した水際対策によって成果を上げている国もある。例えばニュージーランドや台湾は、
一日に数人しか感染者が発生していない。それらの国と日本との共通点は島国ということで、
その利点を活用すれば、・・・おっと話がそれた。このくらいにしておこう。

そんな思いを巡らせながら、私も緊急事態宣言期間中は旅行を自粛していた。そして今回
宣言解除のタイミングを狙って近場の一泊旅行に行くことにし、妻を助手席に乗せて熱海方
面に車を走らせている。

今回の旅の目的地は、静岡県熱海市にある伊豆山（いずさん）温泉だ。この温泉は熱海温
泉街の東に位置する温泉で熱海温泉とは異なるのだが、同じ熱海市にあつて直ぐ隣なので熱
海温泉の一部だと勘違いする人も多い。

■ 走り湯

熱海温泉は海中から熱湯が噴き出し熱湯で魚が死ぬという熱い海に由来するが、伊豆山温
泉は違う。伊豆山温泉の源泉は横穴式源泉という珍しい源泉で、山腹から湧き出た湯が海岸
に飛ぶように走り流れ落ちる様子から「走り湯」と名付けられた。そして走り湯の湧き出る
山はかつて「走り湯山」と呼ばれたが、後に「伊豆山」と呼ばれるようになり、伊豆山温泉
になった。

その走り湯の源泉の湧き出し口を見ることができるので行ってみた。国道 135 号線から海
岸脇の道路に出て少し上がった場所に横穴式源泉がある。私は海に面した崖に開いた穴から
源泉の熱湯が勢いよく走り出ている姿を想像していたが、現物はちょっと違った。

結構立派な石造りのトンネルがあつて、そのトンネル内の右側の足元に木材で囲った水路
があり、その中を湧き出たばかりの熱湯が流れている。トンネルの入口は高さ 1.6m、横幅
1.5m 程なので人が入ることができ、奥行きは 10m もないので簡単に奥までたどり着くこ
とができる。そこには横幅 1m 程の石で囲まれた湧出口から熱い湯がポコポコと湧き出ている。
そのためにトンネル内は蒸気でカメラのレンズが曇ってしまい撮影できなかったが、肉眼で
はしっかり見ることができる。

木製の水路は途中で蓋のない部分があつて湧き出たばかりの湯に触ることができる。私は
かなりの熱湯を想像していたが、妻が触ってもそうでもないと言っている。私も手を入れて
みたが確かに触れない温度ではない。この源泉の湧出温度は 69℃ということで、お茶を入れ
る適温くらいだから一瞬ならば触れる温度である。ポコポコと湧き出ているのは沸騰してい
たからではなく、山の中を流れてきた水圧で勢い良く湧き出ている。さすが走り湯、その名
に恥じない勢いに感服する。



【走り湯源泉の入口】

走り湯源泉の入口付近には説明の看板が立っている。伊豆山の上にある伊豆山神社の本殿まで、階段が 837 段続いているという。その伊豆山神社は歴史ある由緒正しい神社で、伊豆山と箱根の二社を参拝してその後に三島大社に行くという“二所詣”というのが鎌倉時代からあるという。源実朝の残した句が看板に書かれていた。

次回訪れる時には階段を登って伊豆山神社を参拝してみたい。

■大江戸温泉物語の宿に泊まる

本日の宿は走り湯の近くで国道 135 号線沿いにある大江戸温泉物語の宿「ホテル水葉亭」で、私が日頃ゴルフに行く道路沿いにあって以前から気になっていた宿である。

大江戸温泉物語の宿は何回か紹介しているが、リーズナブルな料金で泊まれることを特徴にしている。経営不振に陥ったホテルや旅館を買い取り、独自のノウハウで再生して安価に宿泊・サービスを提供している。同様なビジネスを展開する伊東園ホテルズ、おおるりグループの後追いなので、先行する 2 社に比べて質を上げて価格も少し高めに設定している。その路線が受け入れられてか、女性や家族連れに人気がある。

緊急事態宣言のために大江戸温泉物語の各施設は 2 カ月半もの間休業していた。満を持しての営業再開と春休みということで休前日でもないのにお客も多い。特に若者が多く、一見して卒業旅行と分かる若者グループも目につく。彼らはカラオケや卓球に興じて、みな大いに盛り上げて楽しいでいる。

こういった行為がまた感染を広げると心配する向きもあるが、宿は休業している間に万全の準備をしていた。入館時の検温、消毒、問診票・誓約書、何処から来て何処へ行くかの調査、三密対策、換気、特にカラオケ利用は宿としてできる限りの対策をとっているようだ。

若い人が多いのはお客だけでなく宿の従業員も同様だ。そして私は若い人がいきいき働く姿を見ると何故か嬉しく思ってしまう。この感覚は自分が若い時にはなかったものだ。

ロビーにいた若い女性従業員に「“お客の入り”はどう？」と聞いてみると、「3日前に営業再開したばかりですが、たくさん来館していただいています」と言っている。

続いて私は「休業期間中、従業員はどうしていたの？」と聞くと、彼女は「自宅待機、つまりお休みです」と答えてくれた。

さらに私が「給料はもらえるの？」と聞くと、彼女は小声で「7割程いただいていた」と申し訳なさそうに答えてくれた。

休業しているから会社としては収入がないのに、7割とはいえ給料を払うのは会社経営としては英断だったに違いない。

このホテルは伊豆山と海岸の間の中腹部分を走る国道135号線沿いにあり、国道と海との狭い断崖の上に建っている。従ってホテルからは遮るものもなく相模湾を臨むことができる。私たちの今回の旅は景色よりも温泉と料理を主目的にして、3番目にコストを優先させたために海の見えない山側の部屋を取ったが、ロビーや大浴場からは綺麗に相模湾を見ることができる。



【海岸から見た大江戸温泉物語「ホテル水葉亭」 右が大浴場】

■風呂と食事

宿の風呂はもちろん温泉で、直ぐ近くの走り湯源泉を使用している。

泉質は等張性ということで温泉の濃度が人の体液の濃度とほぼ等しい。日本にある温泉地の多くは濃度が低い低張性の湯が圧倒的に多く、等張性や高張性の湯は珍しい。

低張性や等張性について少し触れておくと、人の皮膚は（理科の授業で習った）半透膜なので体液と風呂の湯の濃度を同じにしようとする作用が働く。温泉濃度が低いと体液の濃度を薄めるために水分を吸収し指先がシワシワになるのはその証だ。従って温泉濃度が低い、つまり低調性の湯では温泉成分の効能にあやかりにくくなる。等張性や高張性の湯では温泉成分の効能が効きやすくなる。

湯はやや薄い緑色で多少濁っているように感じるが、隣の熱海温泉のように塩味はしない。山から直接出ているので熱海とは全く泉質が異なり、私としては熱海よりもこちらの方が好きである。

大浴場は断崖に突き出た場所にあって、海を眼下に眺めながら入浴できる。浴槽もいくつかあって広く解放感があるが、残念ながらコンクリート製で窓も開かないため風情は感じられない。

風情を求めて敷地内の少し離れた場所にある露天風呂に行ってみた。断崖に建つ宿なので景色の良い場所を確保するのに苦労したようで露天風呂は一つしかなく、男女で時間入れ替え制になっている。それでもロケーションは良く、岩風呂で海を眼下に臨み、いい感じの雰囲気を出している。10人は入れそうな広さで湯船の真ん中に大きな岩があって島のようにっており、そこから一本の大きな松の木が生えて独特の景観を造っている。海を見ながら解放感たっぷり、山から湧き出てきたばかりの走り湯源泉の湯は実に気持ち良い。



【露天風呂 相模湾が広がる】

食事はビュッフェスタイルで、かなりの種類の和洋中の料理が並んでいる。加えて専門の料理人が天ぷらを揚げ、寿司を握り、ステーキを焼くなど出来たての料理を提供するコーナーもある。また今回は特別に営業再開を祝してズワイガニ食べ放題というイベントもやっている。

さらにビュッフェスタイルの食事では見かけたことがない海鮮釜めしというものを発見した。それは旅館でよく出てくる一人前の小さな釜を固形燃料で焚くもので、自分のテーブルに持って来て火を点けて待っていると釜めしが出来上がる。正直これには私も驚いた。いろいろビュッフェスタイルの食事を経験してきたが、これは初体験だ。

朝食でも少し感動があった。それはマゴ茶漬だ。マゴ茶漬は元々この地域の漁師飯だったが最近はこの一帯の名物料理になっている。ご飯に鰹のタタキ、薬味を乗せて出し汁を掛けるというシンプルなお茶漬だが、シンプルなものほど味付けが難しい。しかしこのマゴ茶漬はなかなかいい味を出しており研究の跡がうかがえる。ちょっとほめ過ぎか。

マゴ茶漬については旅行記「小田原及び近郊の旅 2020」で詳しく書いている。

■温泉評価委員会

私は温泉宿を評価する温泉評価委員会、通称「おひょい」を立ち上げている。それは温泉宿に泊まった時に組織される勝手気ままな委員会で、委員は同行した人になる。何が良かったとか悪かったとか、あれこれ話し合っ各項目を5段階で評価し、委員会として評価値を算出する。

評価の基準は、5は驚き感動、4は普通に良い、3は可もなく不可もない、2は普通に悪い、そして1は失望落胆としている。

総合点（平均値）で5段階の75%、つまり3.75をオススメの目安としている。特に4.00を超えるには驚き感動が少なくとも1項目以上あるからオススメ度は高い。

伊豆山温泉大江戸温泉物語「ホテル水葉亭」は泉質4、風呂4、料理4.5、コスパ4、サービス3、建物・部屋4、立地環境4、総合点3.93になった。眺望の良くない部屋を選んだので価格はかなり抑えられたが、オーシャンビューの部屋でもそんなに高くはない。

泉質はカルシウム・ナトリウム-硫酸塩・塩化物泉で等張性弱アルカリ泉、pHは8.1、湧出温度は69℃となっている。

■旅の記録

実施は2021年3月21日（日）～22日（月）の2日間、その行程を以下に示す。

- ・1日目 昼過ぎに車で自宅出発、約2時間で熱海市の大江戸温泉物語「ホテル水葉亭」着、雨のために観光なし
- ・2日目 10時に宿を出発、走り湯を見学し帰宅

費用は2人で約13000円の格安の旅になった。

- ・宿泊費 10056円（2人分1泊2食付税込15056円、そこから5000円の割引適用※）
※私は3月生まれなので誕生月割引クーポンを事前にメールでもらっていた
- ・交通費 約3000円、小田原厚木道路往復、ガソリン代、飲み物など